

中 学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

美 術

東京都教育委員会

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究仮説	2
III	研究の構想図	2
IV	研究の内容	3
V	研究の成果	16
VI	今後の課題	16

東京都教育研究員共通研究テーマ 学習指導要領に対応した授業の在り方について
美術部会研究主題

「感性を豊かに働かせるための、形、色彩、イメージの指導と言語活動の充実」

I 主題設定の理由

1 生徒の現状と課題

生徒を取り巻く生活環境は、急速に変化し続けている。新聞等でも報道されているように、平成 22 年は「3D 元年」と言われている。映画やテレビなどの画面が三次元的に映し出され、まるで自分も画面の中に存在しているような臨場感を味わうことができるようになった。インターネット技術は急速に進化し、携帯端末を通していつでもどこでも情報を収集したり、発信したりすることができるため、生徒にとっては、相手と直接対面せずにコミュニケーションを図ることが当たり前になっている。また、携帯ゲーム機についてはさらに高度化し、土曜日や日曜日には常にゲーム機を持ち歩く生徒も多く見られる。

これらの生徒を取り巻く生活環境が、中学生を含めた子供たちの成長に大きな影響を与えているとも言われている。子供たちはバーチャル環境に埋没しがちになり、家庭での人間関係や学校や地域での人間関係が希薄になっているという意見もある。

近年、学校において、自己理解や他者理解を苦手とする生徒が増えてきていることを実感する。そのような生徒は、自分の思いや考えを表現することが苦手であり、自分の感情を整理して伝えることが難しい。また、相手の気持ちや立場となって考えることも苦手になってしまっている。そのため、友人との望ましい人間関係を構築することが難しく、自分に自信がもてずに、不安を感じている生徒が見られる。

2 美術科の役割

美術科の目標は、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」とされている。美術は、特に対象のもつ美しさや生命感、心情、精神的・創造的価値といったものについての感性を中核としており、目に見えるものや目に見えない想像や心、精神、感情、イメージといったものを可視化、可触化できる唯一の教科である。また、美術の学習活動は、創造的な活動の中で感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美意識を高め、自己の世界の意味付けをし、自らの夢や可能性の世界を広げていく学習活動である。

これらのことから、生徒の現状と課題を解決する手だてとして、美術の創造的な活動の中で生徒の感性を豊かに働かせることにより、生徒に自分の内面を見つめさせること、そして自己実現的な喜びを実感することで自己肯定感を高めること、さらに他者理解の場面を多く設定しお互いを尊重する気持ちを育てることが重要であると考えた。そしてこれらのことは、美術科の目指す創造的な資質や能力を育成することとも深く関わっていると考えた。

II 研究仮説

1 仮説

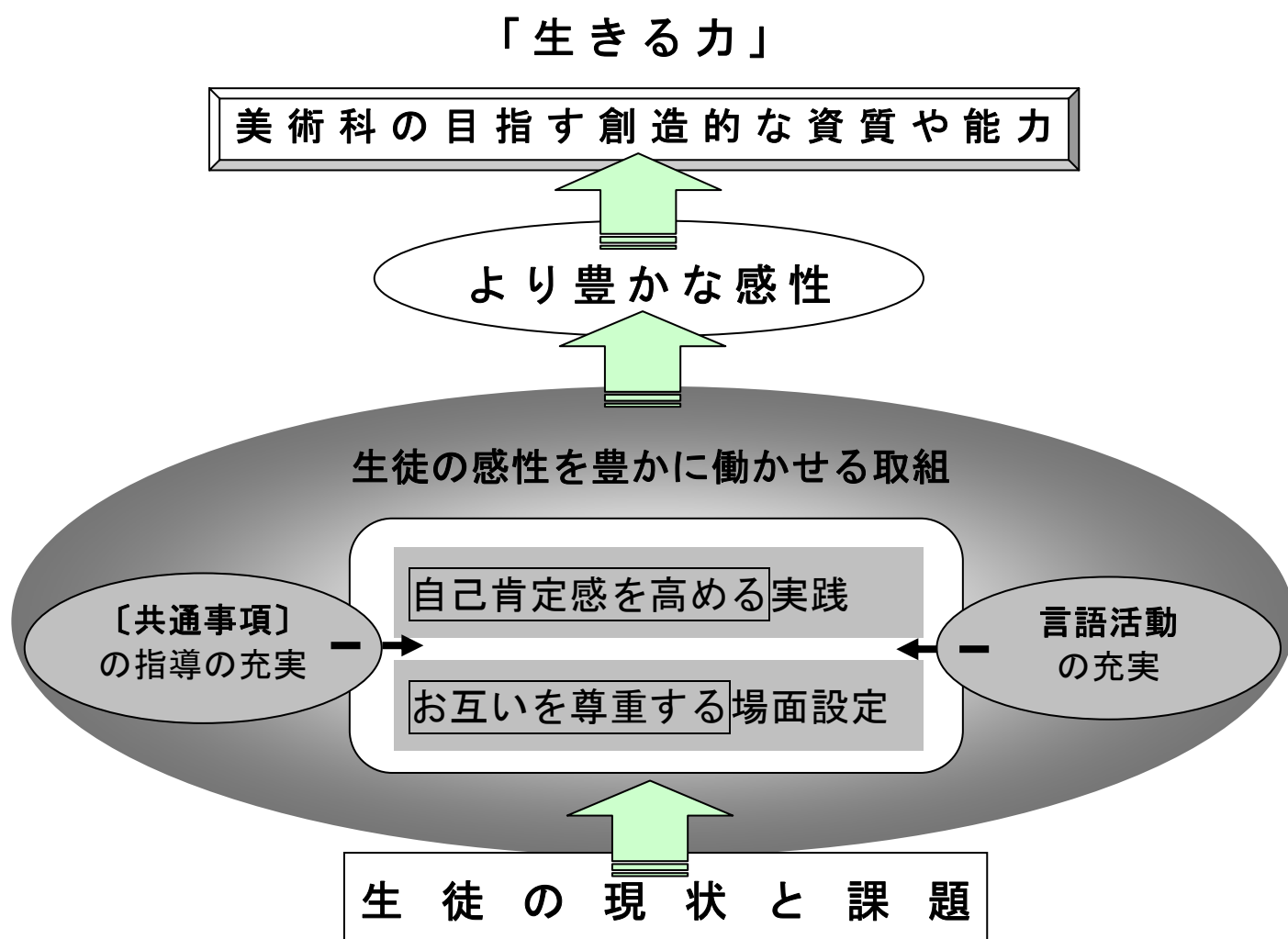
『共通事項の指導や言語活動の充実により、生徒が自己肯定感を高めたりお互いを尊重したりする場面を意図的、計画的に学習活動に位置付けることで、生徒の豊かな感性を育み、美術科の目指す創造的な資質や能力を育成することができる。』

2 仮説設定の理由

私達は、表現及び鑑賞の指導において、生徒が形や色彩、材料などの性質やそれらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージを捉えたりする〔共通事項〕を指導することや、生徒が自分の思いを言葉や文章で伝えたり、他者の作品についての考えを伝え合う言語活動の充実を図ることにより、生徒は自分の思いや感情に気付き、確認し、自分への理解が深まるとともに、自分と他者の見方や感じ方、表現の違いなどを認め、お互いが尊い存在であることを理解し、尊重し合う関係を築いていくことができるようになってきた。

また、このような取組を繰り返し行うことにより、生徒により豊かな感性が育まれ、美術科の目指す創造的な資質や能力を育成できると考えた。

III 研究の構想図



IV 研究の内容

1 研究の方法

仮説に基づき、検証授業による実践的な研究を通して検証する。検証授業の指導計画には、〔共通事項〕の指導のポイントとなる場面や、言語活動の充実を図る場면을【**共通事項**】、【**言語活動**】として具体的に位置付けるとともに、生徒に自己肯定感を育む場面、お互いを尊重する場면을【**自己肯定感**】、【**相互の尊重**】と明記し、意図的、計画的な指導を行う。

また、授業後には、生徒の変容を鑑賞カードや自己評価カードなどのワークシート、授業の観察及び作品の評価等により、調査・確認・分析する。

(1) 〔共通事項〕のポイントとなる指導について【**共通事項**】

表現及び鑑賞の活動において、〔共通事項〕の指導を適切に位置付けた題材の設定を行い、指導計画にも明確に位置付ける。具体的には、教師が生徒に共通事項の視点を生かした説明や発問を行い、生徒が自ら必要性を感じて〔共通事項〕の視点を意識し、形や色彩などに対する豊かな感覚を働かせるとともにイメージを膨らませて表現及び鑑賞の学習に取り組むことができるようにする。

(2) 言語活動の充実を図る場面について【**言語活動**】

言語活動を充実させる場面を、指導計画に意図的、計画的に位置付けて実践する。

表現においては、言葉や文章を用いて、表現意図などの自分の考えを整理することができるようにする。また、鑑賞の場面では、言葉を使って他者と意見を交流することにより、それまでは漠然と見ていたことが整理されたり、自分一人では気が付かなかった価値などに気付いたりできるようにする。

(3) 自己肯定感を育む場面について【**自己肯定感**】

美術科の学習活動は、生徒が自分の思いや考えを基に表現したり鑑賞したりすることを通して、意味や価値を創造する活動であることから、自己理解が極めて重要となる。したがって、生徒がワークシート等に、作品に込めた思いや制作意図、鑑賞して感じたことなどを言葉や文章に表したり、友達の作品から感じたことなどを言葉や文章で他者に伝えたりするなど、生徒が自分の考えや心情を整理し自己確認しながら活動することができるようにする。

また、一斉指導の場面において、教師が生徒の作品やワークシートなどを紹介することで、紹介された生徒が自信をもったり、他の生徒が参考にしたりすることができるようにする。その際、生徒のその後の表現や鑑賞につながるように、わかりやすい言葉で批評する。

個に応じた指導を行う際にも、共感的な指導を基本として具体的に励ますなどすることにより、生徒が意欲をもって前向きに活動できるようにする。

(4) お互いを尊重する場面について【**相互の尊重**】

制作の過程や完成段階などにおいて、生徒の実態に応じて、学級全体やグループなど形態を工夫して、一人一人が自分の思いや工夫したことなどを発表したり他者のよさを認め合ったりして、学んだことを互いに共有するなど、作品を通して他者と考えを交流させ互いに学び合うことを経験させる。具体的には、お互いの作品を見て思ったことや感じたこと等を、自分の価値意識を大切にしながら批評する。その際、よい点だけでなく、アドバイス等も伝えるなどし、その結果を自己の作品やワークシートに取り入れることができるようにする。

2 検証授業

検証授業 1

対 象 第2学年 授業者 江東区立南砂中学校 教諭 岩本 さつき

1 題材名 「心にくみとる器」 A表現(2)(3) B鑑賞(1)

2 題材の目標

身近な工芸品に興味をもち、使用する人の気持ちを考えて豊かに発想し、陶芸の基本的な技能を身に付け、自らの表現意図に沿った技法を効果的に使い創意工夫しながら制作するとともに、工芸品の良さや美しさに気付き、自分の生活をより豊かなものにしようとする。

3 指導観

(1) 題材観

本題材は、日常生活の器を使う場面を振り返ることで、自分の内面を見つめる活動である。言葉によるアイデアスケッチを活用し、日々の生活の一場面における自分の思いや感情や心情について、考え、それを形にすることをテーマとする。「自分の心にふさわしい形」を探す過程を通じて自分の思いに気付き、そうした思いや願いを大切にし、自分の生活を丁寧で彩り豊かなものにしようとする感性を育てたい。

(2) 教材観

今回の課題では、粘土の手触りや質感といったものを直接に感じ取りながら、自分の思いを形作って行く過程をまず楽しませたい。その中からより深く自己の内面を見つめ、自分の感情を形や色彩に置き換える体験につなげさせる。本校には2台の窯があり、生徒たちが自分の手で窯入れ作業を行ったり、焼いている様子を実際に見たりすることができる。こうした経験を通じて、生活をより美しく豊かなものにしようとする工夫や、感情や感動を他者と共有する喜びを学ばせたい。

4 題材の評価規準



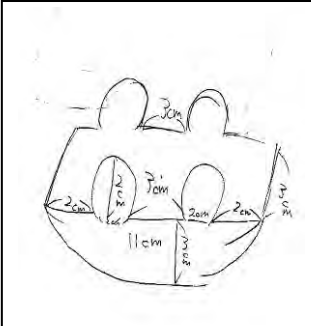
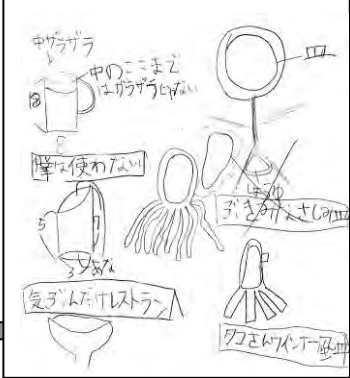
	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①身近な工芸品に関心をもち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。 ②身の回りの工芸品など生活を美しく豊かにする美術の働きに関心をもち、主体的に見方や理解を深めようとしている。	感性や想像力を働かせて、目的や条件、伝えたい内容、使用する者の気持ちや機能などを基に、形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え見直しをもったりしながら、創造的に表現している。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさなどを感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化などについての理解や見方を深めている。
学習活動に即した具体的評価規準	①授業に積極的に取り組み、主体的に創造性をもって活動しようとしている。 ②暮らしの中で出会う工芸品について興味をもち、楽しみながら創意工夫して、自分の生活をより彩り豊かなものにしようとしている。	①用途や使う人のことを考えながら目的や条件、機能と美の調和を考えて発想し、構想を練っている。 ②日常の場面から発想を広げ、言葉と絵を用いてアイデアを整理し、そこにふさわしい器の形や色彩を考えている。	①材料や用具の性質と使い方を理解し、練り、形成、削り、釉がけなどの基本的な技能を身につけている。 ②手びねりの自由な可塑性を活かし、自らの表現意図に沿って効果的に使うことができる。	①工芸品のもつよさや美しさを感じ取り、想像力を働かせて、それらが生活にもたらす効果や感情について考えを深めている。 ②他者の表現から美しさや意図、生活を豊かにする工夫などを感じ取り、自分なりの価値観をもって批評し、見方や感じ方を深めている。

5. 指導計画（8時間扱い）

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価
導入 第1時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で、器を使う場面を想定し、そこにふさわしい言葉を考える。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 自分で考えた言葉を基に、器を使っている場面のイメージを膨らませ、その場面に似合う形や色彩、質感を考えながらアイデアスケッチをし、構想を練る。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いて、言葉によるアイデアスケッチをさせる。 色、形、大きさ、重さ、手にもつた時の感覚などポイントを絞れるような声かけをし、「何となく」という答えで終わらないようにする。 	ア① イ① ウ①
展開 第2時 ～ 第6時	<ul style="list-style-type: none"> 陶土で器をつくる。 土の感触を楽しみながら手びねりで形成し、アイデアスケッチを基に自分の発想、構想したことを形にする。 お互いの作品を鑑賞しあう。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 相互の尊重 色や質感を考えて釉薬を選び、釉がけ、焼成をする。 【共通事項】自己肯定感 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で設定したテーマに沿って形を作ることができるように注意させる。 相互鑑賞を通して、イメージの伝え方や表現の仕方を考えさせる。 	ア① ア② イ① イ② ウ① ウ② エ① エ②
まとめ 第7時 ～ 第8時	<ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチの時の考えに沿って、日常の中で自分が制作した器がどのように使われるか、その場面で自分が何を表現しようとしたかをまとめ、展示パネルを制作する。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 相互鑑賞をし、作者のアイデアや表現の工夫を考えながら、作品に込められた感情やイメージを伝え合う。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 相互の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が抱いたイメージをどのように伝えるか考え、形・色彩・材料などを工夫しながら展示パネルを作るようにさせる。 作品を鑑賞しながら、作者の工夫や意図と同時に、作品の背景となる願いや思いにまで想像を働かせて読み取るようにさせる。 作品を通して、感動や感情を共有する体験ができるように指導する。 	ア① ア② エ① エ②

6 本時の指導（本時：1／8時間目）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 用意された複数の器を見て、好みや使い勝手などについて自由に発言する。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 相互の尊重 好きな器が見つかったら、なぜ好きだと思ったか考える。 【言語活動】【共通事項】自己肯定感 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの見本を用意し「どのような場面で」「どんな気持ちのときに」など具体的な場面設定を考えた声かけをする。 共通事項の視点を大切に発問により、生徒の「何となく」という回答に広がりをもたせる。 	ア① ア②
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> 日常の場面を時間ごとに想定し、そこにふさわしい言葉を考えてワークシートに書く。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 ワークシートの言葉を基に形や色を考え、イメージを膨らませてスケッチを描く。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 	<ul style="list-style-type: none"> 集中できるように短く時間を区切り、その都度制作上のポイントを伝える。 机間指導をし、個別の進捗状況に合わせて声かけをする。 焼き締まりによる縮みを計算に入れ、窯の容量に合う大ききで作することを伝える。 	エ① エ②

	<p>生徒作品（ワークシート）より</p>  <p>もちをイメージした器にお菓子などを入れて、お正月、家族とこたつでぬくぬく。</p> <p>自分が二十歳になった時、亡くなったお父ちゃんのお墓の前で一緒にお酒を飲むための器。細長い方の器は魚を置く。</p>   <p>しょうゆ皿とはし置きが合体したら便利だと思った。</p> <p>家族とのんびり食事をする時に楽しくなるような器。細長い筒は伝票を入れる物で、気分だけレストラン。</p> 	
<p>まとめ 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今回のアイデアからひとつを選び、実際に作る形を決める。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 次回予告をし、片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の内容が次回以降につながっていくことを確認する。 <p>ア①② エ①②</p>

7 成果と課題

最初は見本を真似た作風であった生徒も、より細かく使用する場面を設定させながらアイデアを出させることで、自分らしさを発揮して少しずつ発想に広がりを得ることができた。

また、実際に制作していく中で、当初のアイデアから更にイメージを発展させていく場面も見られた。制作を終えてみると、作品の主題は同じようなものであっても、生徒によって様々な表現方法と創意工夫された作品ができた。

課題として、導入部分で自分の心の中を具体的に想像できるような発問の工夫と、落ち着いてじっくり考える時間の確保があげられる。また、生徒は自分の技能との関連で発想を広げていくことから、より多彩なアイデアや自由な表現を可能にするために、創造的な技能の指導も更に充実する必要がある。

検証授業 2

対 象 第 1 学年 授業者 葛飾区立高砂中学校 教諭 石井 茉里

1 題材名 「TOKYO アートで展覧会」 B鑑賞（1）

2 題材の目標

作品カードの鑑賞を通して、美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取るとともに、東京の美術館等にある美術作品及び美術文化に対する関心を深める。

3 指導観

(1) 題材観

この題材は、アートカードを用いて楽しみながら作品にふれ、美術作品のよさや美しさを感じ取り味わうものである。

中学校 2、3 年における鑑賞の目標には、「感じ取ったことや考えたことなどを自分の価値意識をもって批評し合うなどして、自分なりの意味や価値をつくりだしていくこと」とある。このような鑑賞につなげるためには、第 1 学年の時から「作品をよく見て、形や色彩、材料など、様々な視点から捉える」「作品に対する自分の見方や感じ方を大切にし、自分の考えを言葉で表現し伝え合う」などといった活動を積み重ね、鑑賞の能力を高めるとともに、自分の考えをしっかりと発言できるようにしなければならない。この題材は、それらの能力を伸ばすための練習ツールの短時間題材と位置付ける。

(2) 教材観

このカードは、授業者が独自に開発した教材で、東京都内の美術館・博物館の収蔵作品及び野外作品 36 点をカードにしたものである。1 点の作品をとりあげて味わう鑑賞とは違い、生徒は一度に多種多様な美術作品を見ることができる。また、東京都における美術文化の理解を深めることにも役に立つ。

鑑賞の際には、自分の選ぶカードが与えられたテーマに沿っているかどうかを見極めるために、作品に何が表現されているか、色彩や形はどのような効果を作品に与えているか、作品からどのようなイメージを抱くか、などの視点を大切にしながら鑑賞する必要がある。

4 題材の評価規準

	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	美術の創造活動の喜びを味わい、美術作品や美術文化などに関心をもち、主体的によさや美しさを感じとろうとしている。			感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和などを感じ取り見方を広げたり、美術文化の特性やよさなどに気付いたりしている。
学習活動に即した具体的評価規準	①鑑賞活動に親しみ、班員と協力しながら主体的に取り組もうとしている。 ②東京が擁する美術の文化遺産や作品を鑑賞し、東京の美術文化に対する関心を深めようとしている。			①作品をよく見て、作品の形や色彩、素材、主題などを味わっている。 ②多くの作品カードの中から、展覧会テーマに合わせてカードを選ぶなど、自分なりに感性を働かせながら味わっている。 ③作品に対して抱いた思いや考えを言葉で表現し、伝えあうことで、作品に込められた作者の思いや願いなどを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。

5 指導と評価の計画(2時間扱い)

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価
第1時 (本時)	<p>カードを美術作品に見立て、学芸員になったつもりで展覧会の企画を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 班で展覧会のテーマを決める。色彩、感情、イメージなど〔共通事項〕をヒントに考える 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 相互の尊重 テーマに沿った作品を1点選び、自分で題名をつける。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 相互の尊重 なぜその作品を選んだか、説明を書く。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 好きな色の画用紙やペンを使い、展覧会のイメージに合わせて台紙を飾りつける。 【共通事項】 自己肯定感 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容や手順及び学芸員について(仕事内容、展覧会の仕組み)は、プレゼンテーションソフトを使用して説明する。 本時は全員が学芸員となって班で設定したテーマに沿って自分の見方や感じ方を大切にしながら、紙上展覧会を企画することを伝え、意欲を喚起する。 	ア① ア② エ① エ② エ③
第2時	<p>紙上展覧会を完成させる。 クラス内で紙上展覧会を互いに鑑賞し合う。 各班の展示企画を班ごとに発表し合う。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 相互の尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由に紙上展覧会を鑑賞し、一番良いと思った班の展示について、感想を書く。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 相互の尊重 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 題材全体を通しての感想を書く。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿った展覧会ができたか確認させる。 ワークシートを用いて鑑賞する。良いと思った展覧会名やその理由を書かせる。 後日、全てのクラスの展覧会を廊下に掲示する。 	ア① ア② エ① エ③

6 本時の展開(本時: 1/2時間目)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 美術館の展示について知る。 TOKYOアートカードとプリント類のセットを用意し、内容の確認をする。 展覧会作りの説明を聞き、準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術館での鑑賞及び学芸員の仕事について考えさせる。 プレゼンテーションソフトを用いて、学習の展開を説明する。 	ア① ア②
展開 35分	<p>班で協力して紙上展覧会を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画責任者を決める。 紙上展覧会名を相談して決める。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 相互の尊重 各班員は展覧会に出すカードを1枚ずつ選び、テーマにどう関わるか説明し合う。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 キャプションを作成する。自分で考えた作品のタイトルをつけ、なぜその作品を選んだのかについて書く。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 	<ul style="list-style-type: none"> 〔共通事項〕の視点を大切にしながら、展覧会名を考えるように指導する。 班員全員で展覧会を企画するため、各自の見方や感じ方を大切にする環境を設定する。 話し合ったテーマに沿って、作品を選択させる。 様々な色の色画用紙を用意し、展覧会のテーマや作品のイメージに合わせて色を選ばせる。 	ア① ア② エ① エ② エ③

	<p>・班で相談し、台紙に作品カードとキャプション、展覧会名、展示コンセプトを貼り、カラーペンなどで装飾する</p> <p>【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 相互の尊重</p>		
まとめ 20分	<p>本日の活動を振り返り、感想をまとめる。</p> <p>【共通事項】【言語活動】 自己肯定感</p>	<p>次回は、お互いに鑑賞し合うということを知らせておく。</p>	<p>ア① ア② エ① エ③</p>



活動の様子



TOKYO アートカード



紙上美術館

7 成果と課題

この題材に取り組み、生徒は楽しそうに活動していた。生徒の感想の中で一番多かったのは、「色々な作品を見ることができて楽しかった」というものであった。このような多彩な作品が、自分たちが住む東京都内にあることを喜び、「美術館で本物を観てみたい。」という声も聞こえた。

また、「作品の題名を考えるのがおもしろかった」という感想も多くあった。自分の見方や考え方を大切にしながら作品名を考えることにより、作者の心情を想像し、深く味わうことを促すことにつながった。また、生徒は、他者の考えを知ることで、様々な見方や感じ方に気付き、自分の見方を広げることができた。完成した紙上展覧会も、班の個性が出て多種多様な作品となった。展示企画を疑似体験させることは、生徒の視野を広げ、今後の鑑賞活動をより深く行うためのきっかけとなった。

課題は、生徒の実態に応じて説明をやさしい表現にするなど、工夫する必要があるということである。展覧会についての説明や、学芸員の仕事内容に関することなどの説明が具体性に欠けたため、自分が何をしたらよいかわからないという意見が出た。展覧会のテーマなどの話し合い活動を深め、生徒のより主体的な鑑賞を促すために、改善する必要がある。

検証授業 3

対 象 第3学年 授業者 杉並区立東原中学校 主任教諭 宮越 一昭

1 題材名 「自己を見つめて ～自画像の制作～」 A表現(1)(3) B鑑賞(1)

2 題材の目標

自己の内面を見つめて主題を生み出して心豊かに発想、構想し、表現意図に沿った形や色彩、材料などを使って創意工夫しながら表現するとともに、自他の作品のよさや美しさなどを深く感じ取り、味わう。

3 指導観

(1) 題材観

義務教育最後の年に、また、進路選択の迫られる年に、心の中の自分と対峙し、自分自身を見つめ直してみようとする自画像の制作は、中学3年の生徒にとってとても大切であると考えられる。しかし、集団による授業の中で自分を表現するという事は、思春期の生徒たちには勇気のいることでもある。また、人物描写は、どうしても「似ている」「似ていない」という表面的な技能だけにとらわれてしまう生徒も多い。自画像という題材では、じっくり自分と対峙させ対象を深く見つめ、自己の内面をさぐり、整理し、それらを基に主題を生み出すことのできる発想や構想の能力、形や色彩、材料などを駆使して主題を追究する生徒たちの姿勢を重視したい。

(2) 教材観

生徒たちがいろいろな切り口で自己分析することで主題を明確にしなければ、自分の思いを形や色彩に効果的に変換することはできない。そこで本題材では、自分という対象を様々な視点で捉え直し分析できるよう言葉や文章で書かせ、主題を明確にさせるとともに、これまで身に付けてきた形や色彩、材料などのもつはたらきを意識させながら創意工夫させ、自分の主題にあった表現方法や表現様式を選択できるよう配慮した。形や色彩、材料などを駆使して、自分のイメージを創意工夫しながら追求することを通して、より深く自己や他者を理解することの喜びや価値を自覚させたい。

4 題材の評価規準

	ア 美術への関・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①美術の創造活動の喜びを味わい、自己の内面を表現することに関心をもち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。 ②美術の創造活動の喜びを味わい、他者の作品に関心をもち、主体的に見方や理解を深めようとしている。	感性や創造力を働かせて、自己の内面を深く見つめ、感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出し、心豊かな表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、材料や問う具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫し、創造的に表現している。	感性や創造力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。

学習活動に即した具体の評価規準	①主題を踏まえ、自分らしさを表現しようと意欲的に取り組むことができる。 ②作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。	自分らしさについて考えて主題を発想し、スケッチなどを基に想像力を働かせ、豊かに構想し、主題を伝えるために多面的に思考し構想することができる。	多様な表現方法や材料などの生かし方を工夫し、構想を美しく効果的に表現できるように用具を使い、形や色を生かして描くことができる。	自他の作品の造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。
-----------------	--	--	---	---

5 指導計画（10時間扱い）

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価
導入 第1時	<ul style="list-style-type: none"> 自分の性格や特徴を考え、自分自身を見つめる。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 自分を取り巻く様々な事象や対象（ひと、もの、とき）と自分との関係を見つめながら主題を発想し、形や色彩、材料などの効果や構成などを考えながらイメージを広げ、構想を練る。 【共通事項】自己肯定感 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使い、言葉で自己分析を整理させる。 他者の意見も取り入れながら、自分自身の考えを見失わないように注意させる。 	ア① ア② イ
展開 第2時 ～ 第9時	<ul style="list-style-type: none"> 鏡を使い自分自身をスケッチする。 【共通事項】自己肯定感 スケッチを基に、自分を表すためにはどのような表情やポーズがふさわしいのかよく考える。 【共通事項】自己肯定感 主題をわかりやすく伝えるために、どのような表現をするのか、ふさわしい表現方法や、表現のための材料を選択する。 【共通事項】 表したいイメージを基に形や色彩、材料、表現方法などを工夫しながら表現を追究する。 【共通事項】 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的な視点を大切に、しっかりとスケッチさせる。 違う角度から描かせたり、目や口などのアップなどにも注目させたりする ポーズ決定を通して、自分自身の表現したい作品の主題を明確にさせていく。 人物と背景との関係など、構図を工夫させ、自分の意図を効果的に表現できるよう工夫させる。 写実表現に終始せず、いろいろな表現にも着目させ、素材や表現方法を工夫させる。 これまでに学んできた学習を想起させ、外見だけでなく、心の中を表すためには、どんな形・色・材料がふさわしいか考えながら制作させる。 	ア① イ ウ
まとめ 第10時	<ul style="list-style-type: none"> 作品の主題は何か、自分はどのようにそれを表現しようとしたかをまとめ、発表し合う。 作者が作品にどのような工夫で自分自身を表現しようとしたのか鑑賞する。 自分が感じていた作者像と作者自身が感じている内面とを照らし合わせ、自分を描くことの深さを味わう。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 相互の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料などの工夫から作者の意図や表現のよさや美しさを自分なりの価値意識をもって鑑賞させる。 他者の作品の鑑賞を通して、表現することの深さや可能性、独自性の大切さを味わえるよう指導する。 	ア② エ

6 成果と課題

自画像と似顔絵の違いが分からないと言っていた生徒たちが、制作が進むにつれ、写実的な表現よりも、主張したいことや表したいこと、伝えたいことなど、自分らしさを表現することが大切であることを理解し、自分の内面性に目を向けるようになった。そして、主題を表現するために一人一人が形や色彩、材料などを工夫し、多種多様な作品ができた。今後は、導入部分で様々な参考作品を鑑賞する時間を設定すると、生徒はさらに既成概念にとらわれない多様な表現に早く気づき、発想がより自由な広がりを見せると考えられる。

検証授業 4

対 象 第 1 学年 授業者 多摩市立多摩永山中学校 教諭 木原 美恵

1 題材名 「色の性質・色の魅力を存分に楽しもう！」 A 表現 (2) (3) B 鑑賞 (1)

2 題材の目標

色の性質や感情を理解し、色の組合せによって、イメージを広げ、生活に活用する。

3 指導観

(1) 題材観

この題材では、夏季休業中の家庭科の宿題で食事の献立を考えることを基に、色の効果により私達の生活が豊かになっていることに気づき、配色の工夫について考える。

色の三属性や体系、性質や感情などを総合的に理解し、色の組合せや配色、感情効果を意識しながら自分の表現したいことに活用し、生活を豊かにしていこうとする態度を養う。

(2) 教材観

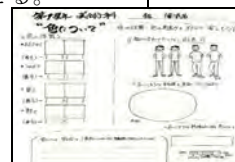
この題材では、短時間で効果的な配色を実現するために、色鉛筆を使用した。


4 題材の評価規準

	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①目的や機能を考えて表現することに関心を持ち、主体的に色について考えようとし、発想、構想したり、材料や用具を生かしたりしようとしている。 ②作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。	感性や想像力を働かせて、生活を豊かにしていこうと発想し、色彩の効果を生かして表現の構想を練っている。	感性や創造力を働かせて自分の心情や考え、イメージを基に組み合わせを考え、意図に応じて材料や用具を生かしたり、創意工夫して表現したりしている。	①感性や創造力を働かせて、色についての見方を深め、新たな発見や感動、価値を感じ味わうことができる。 ②造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、生活における美術の働きなどを感じ取り、見方を広げたり、気付いたりしている。
学習活動に即した具体的評価規準	①目的や機能を考えて表現することに関心を持ち、主体的に色について考えようとし、発想、構想したり、材料や用具を生かしたりしようとしている。 ②作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。	感性や想像力を働かせて、生活を豊かにしていこうと発想し、色彩の効果を生かして表現の構想を練っている。	感性や創造力を働かせて、自分の心情や考え、イメージを基に組み合わせを考え、意図に応じて材料や用具を生かしたり、創意工夫して表現したりしている。	①色についての見方を深め、新たな発見や感動、価値を感じ味わうことができる。 ②造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、生活における美術の働きなどを感じ取り、見方を広げたり、気付いたりしている。

5 指導計画 (3 時間扱い)

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価
導入 第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> 色についての印象や、好きな色について意見を交換し、それぞれの感じ方を確認する。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 相互の理解 日本の伝統色について学び、色名に込められた季節感や美意識について考える。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 配色カードを用いて、色の寒暖や重さ軽さ等の色の感情効果について学ぶ。 【共通事項】【言語活動】 ワークシートを活用し、様々な組合せによる色の感情効果等について意見交換し、色についての共通理 	<ul style="list-style-type: none"> 色についての印象やなぜそのように感じるのか等言葉にして意見を共有させる。 日本の伝統色を学ぶことで、色名に込められた日本の美意識観にふれる。 色相環から補色の特徴など、色の関連について考えさせる。 	ア① ア② エ①



	<p>解、共通認識について考える。</p> <p>【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 相互の尊重</p>		
展開 第2時	<ul style="list-style-type: none"> 色の三属性や色相環を活用し、効果的な配色を考えることを知る。 おいしそうに感じる皿上の彩りを考える。 料理を描き、色の組み合わせや色鉛筆の特性を生かしながら表現する。 <p>【共通事項】【言語活動】 自己肯定感</p> <p>生徒作品</p> 	<ul style="list-style-type: none"> まずは直感的に色を選ばせて考えさせる。 単色では、おいしさを表現することが難しいことや色の組み合わせによって美しさや感情を実感できるようにする。 <p>イ ウ</p> <p>作品への思い（生徒のワークシートより）</p> <p>自分の好きな食べ物のおいしそうな場面を想像して描きました。「おいしさを感じる色」をできるだけ使いました。これを見た人が「美味しそう！」って思ってくれたらうれしいです。</p> <p>作品への思い（生徒のワークシートより）</p> <p>こんな夕食だったらなと思いながら描いた。コーンスープのバジルと食パンの焦げ目を作り工夫しました。なお、オムライスの周りには、ブロッコリーとトマトを交互に入れて、色鮮やかにしました。ハンバーグの下は、じゃがバター！</p>	
まとめ 第3時	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品を鑑賞し、意見交換をする。 <p>【共通事項】【言語活動】 自己肯定感 相互の尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が知ったこと、学んだことを文章で表現する。 <p>【言語活動】 自己肯定感</p>	<ul style="list-style-type: none"> お互いに作品を見せ合い認め合う。 単色では、おいしさを表現することが難しいことや組み合わせによって美しさや感情に触れることを押さえる。 色の三属性や体系が、イメージをも役割をもつことを学ぶ。 	エ② ア②

6 成果と課題

生徒は、日頃何気なく選び使っている色でも、感情や機能があることを知って、驚きを感じるとともに色に対する理解や興味が深まった。今までは、様々な場面において色の組合せを考える際に悩んでいたが、色彩の学習をしたことにより、イメージの広がりや幅が生まれ、色の魅力を楽しむことができた。日本という風土、四季から生まれた伝統色の色名にも驚き、感性豊かに表現された我が国の文化を誇りに思う気持ちも出てきたようだ。

今後は、色だけではなく、素材や形によっても大きくイメージは変わってくることも触れていきたい。そしてこのような学習が、季節による洋服の色の組合せや部屋の模様替えなど、生徒が日常において心豊かに生活を楽しむことに生かされることを期待する。

検証授業 5

対 象 第 1 学年 授業者 授業者 港区立御成門中学校 主任教諭 齊藤 信一郎

1 題材名 「心の形 土と炎で生みだそう」 A表現(2)(3) B鑑賞(1)

2 題材の目標

身近な工芸品に興味をもち、使用する人の気持ちを考えて豊かに発想し、陶芸の基本的な技能を身に付け、自らの表現意図に沿った技法を効果的に使い創意工夫しながら制作するとともに、工芸品のよさや美しさに気づき、自分の生活をより豊かなものにしようとする。

3 指導観

(1) 題材観

この題材では、日常生活で使われる民芸品から工芸品まで、時代や地域によって独特の用途に合った美しい形や色、風合いをもち、多くの人に親しまれている陶芸を、自分自身の「心の形」として表現する。

(2) 教材観

粘土は可塑性に優れ、何度でもやり直しが容易であることから、生徒が失敗を恐れずに表現できる材料である。また粘土独特の自然素材の感触を実感することができる。このことから意欲を高め楽しく制作することができると考えた。対象のイメージを形にしやすく用途に合った形と美しさを考えて、形のもつ働きや表現の効果を確かめながら制作できる。

4 題材の評価規準

	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①陶芸に興味を持ち、進んで見通しをもつて活動に取り組むことができる。 ②自他の作品の良さや美しさを進んで味わうことができる。	使う人の気持ち、用途や機能、美しさなどを考え豊かに発想し構想することができる。	陶芸の基礎技能を身につけ、自分の表現に応じて材料や用具を生かし、表現することができる。	お互いの作品のよさや制作意図、制作過程での工夫を伝え合い味わうことができる。
学習活動に即した具体的評価規準	①陶芸に興味を持ち、進んで見通しをもつて活動に取り組むことができる。 ②自他の作品の良さや美しさを進んで味わうことができる。	使う人の気持ち、用途や機能、美しさなどを考え豊かに発想し構想することができる。	陶芸の基礎技能を身につけ、構想したことを材料や用具を生かし表現することができる。	お互いの作品のよさや制作意図、制作過程での工夫を伝え合い味わうことができる。

5 題材の指導計画と評価計画(8時間扱い)

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価
導入 第1時	参考作品を鑑賞する。 ・様々な陶芸作品を鑑賞し、感じたことや考えたことをワークシートに書く。【言語活動】 主題を設定し、アイデアスケッチをする。 ・使用する場面を考え、言葉で書き出すなどして表現意図を自己確認する。 【言語活動】 自己肯定感 ・自分で書き出した言葉を基に、形や材料などの効果などを考えながらイメージを広げ、表したい感じをアイデアスケッチに表現する。 【共通事項】【言語活動】 自己肯定感	・感性を働かせて作品のよさや美しさを感じとらせることを優先する。 ・生活経験、使う目的、用途、場面、使用する者の気持ち、などを考えて、その場にふさわしい言葉で書き出させる。	ア① ア② イ ウ

展開 第2時 ～ 第7時	粘土で制作をする。 ・表したい感じのイメージを基に、形、材料、表現方法を工夫しながら表現を追求していく。 【共通事項】自己肯定感 ・全体から部分へ制作する。 ・加飾、乾燥・素焼き、施釉、本焼を行う。 ・自分のイメージに合った色を選び、塗り方を工夫して、施釉する。 【共通事項】自己肯定感	・土を練りながら作品のイメージを具体化させる。 ・個別指導時によいところ見出して励ます。	ア① ウ
まとめ 第8時 (本時)	作品を相互鑑賞する。 ・自分の作品について、言葉でまとめカードを作成する。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 ・互いの作品を鑑賞して、カードに感想を書く。カードを交換して読む。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 相互の尊重 ・班の代表者の作品を全体で発表して鑑賞する。 ・後日掲示したカードを読む。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 相互の尊重 ・自分の作品を鑑賞して活動を確認し、ワークシートに記入する。 【言語活動】自己肯定感	・感性を働かせて作品のよさや美しさを感じ取らせることを優先する。 ・じっくり時間を取り互いの作品のよさや制作意図、表現の工夫や、用と美の調和を感じ取らせ言葉で伝え合い、形がもたらす感情を理解させる。 ・自分の作品について何を表現したか、どのように使いたいか、工夫した点などについて自己確認させ、記入させる。	ア① ア② エ

6 本時の展開 (本時：8 / 8時間目)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	本時の目標、活動内容についての話を聞く。	・前回の活動を思い出させ、本時の活動について話をする。	ア①
展開 25分	・作品に、自分が入れてみたいと思うものを入れてみたりして、全員の作品を相互鑑賞する。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 相互の尊重 ・良いと感じた作品を2点選び鑑賞カードに感想を記入する。 ・班の中で相互鑑賞する。 ・作品について感じたよさについて話し合う。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 相互の尊重	・その作品のどこがどのように良いのかを作者に伝える形で書かせる。 ・技能だけでなく、発想の良さ独自の工夫に着目させる。 ・鑑賞カードは後日掲示する。 ・その作品のどこがどのように良いのかを作者に伝える形で話す。	ア① ア② エ
まとめ 20分	・班の中から一点 他の班にも紹介したい作品を決め発表する。 ・自他の作品の良さや工夫した点について気づき文章にしてまとめる。 【共通事項】【言語活動】自己肯定感 相互の尊重	・技能だけでなく、発想の良さや独自の工夫に着目させる。 ・作者が作品を持ち、班長が発表する。 ・発表を聞き感じたこと、気付いたことをワークシートに記入する。	ア① ア② エ

7 成果と課題

アイデアスケッチに言語活動を取り入れることで、自分の心情を整理し、自分の表現したいことについて自ら気づき、発想を深め、多様な表現が見られた。自己肯定感を高めることや、お互いを尊重し合う活動により、前向きに表現活動に取り組む姿勢が見られた。今後も継続的に多様な表現方法を工夫し、自分の意図にあった表現ができるよう、創造的な技能の指導にも力を入れる必要がある。

V 研究の成果

1年間の研究を通して、研究員全員が学習指導要領の理念を確認しながら、美術科教育の在り方について理解を深めることができた。

研究テーマや仮説を設定するにあたり、美術の創造的な活動の中で、生徒の感性を豊かに働かせることにより、自分の内面を見つめさせること、そして自己実現的な喜びを実感することで自己肯定感を高めること、さらに他者理解の場면을多くもちお互いを尊重する気持ちを育てることが重要であることや、これらが美術科の目指す創造的な資質や能力を育成することにも深く関わっていることを確認した。

また、仮説に基づき、検証授業の指導計画に、〔共通事項〕の指導のポイントとなる場面や、言語活動の充実を図る場면을具体的に位置付けるとともに、生徒に自己肯定感を育む場面、お互いを尊重する場면을明記し、意図的、計画的な指導を図ったが、各検証授業の指導計画では、導入からまとめまで常に〔共通事項〕の指導のポイントが位置付けられた。

このことにより、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージを捉えたりする力を育成する〔共通事項〕は、美術科における全ての学習の支えとなるものであり、常に重視して指導するものであることが確認された。

さらに、言語活動の充実については、表現の活動においては、従前から行ってきた導入時の鑑賞活動や、アイデアスケッチの場面で位置付けることにより、生徒の発想や構想が深まることや、鑑賞活動における位置付けにより自分の見方や感じ方を自己確認するきっかけとなり、自己肯定感やお互いを尊重する心を育むために効果的な役割を果たすことが確認された。

VI 今後の課題

本研究の今後の課題として、次の3点を挙げるができる。美術科の目標を念頭に、美術の教師としてのさらなる質の向上を目指し、継続的に研究していきたい。

(1) 学習指導要領の研究の一層の深化

本研究は1年間の取組で完結するものではない。今後も美術科教師としての質の向上、そして生徒たちの学力向上を目指し、研究内容の定着を図るとともに、さらに研究を深化させていく必要がある。

(2) 授業規律やルールのさらなる徹底

授業研究の大前提は、落ち着いた授業を行うことができる環境にある。より感性の高まる環境を作り、研究を深めるためにも各学校全教師の共通理解を図り、授業規律やルールの徹底に取り組んでいかなければならない。

(3) 系統的な学習を行うための小中連携の研究

中学校に入学時に、苦手意識を強くもち、美術に意欲的に取り組むことができない生徒がいる。地域の小学校と連携し、義務教育9年間を系統的に考えたカリキュラムを相互に確認したり、小学校での学習内容や実現状況を踏まえた上で中学校での指導内容を見直したりするなど、より効果的な取組を目指す必要がある。

平成22年度 教育研究員名簿

中学校・美術

地区	学校名	職名	氏名
港区	御成門中学校	主任教諭	◎ 齊藤 信一郎
杉並区	東原中学校	主任教諭	○ 宮越 一昭
江東区	南砂中学校	教諭	岩本 さつき
葛飾区	高砂中学校	教諭	石井 茉里
多摩市	多摩永山中学校	教諭	木原 美恵

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
指導主事 松永 かおり

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
中学校 美 術

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451